



◆一般投稿作品◆

広報委員会

道の辺のみ仏に降る寒き雨
甘諸焼かむ夜風に捨てし枝あつめ
真つ白な霜柱立ち大根引く
嬉しさは家族と共のお正月
案山子祭廃材動物子等興味
木守柿目白むさぼる小春日和
水甕に月光揺らぐ寒の入
限りあるものに思いを時雨来る
屠蘇祝う重き命を授かりて
窓外の冬霧深く明けにけり
ねね様の足守の里紅葉散る
新年は賑やかな日々孫が来て
大冬木役目終へたる竹箒
逆縁に耐えし人あり神無月
小春日に髪白み来ぬ母を訪ふ

◆かがみ野俳句会◆

柚子玉に遊ばれてゐる湯浴みかな
日向ぼこ亡夫の使ひし按摩機と
失敗も話題の一つ年忘れ
筆走る掠れる文字や十二月
こぼれ来し冬の紅葉にある息吹
反目を隠す柎咲きにけり
歳晩の寸暇を包みキャベツ巻き
狼煙めく湯けむり一つ柚子の里
ビル覆ふテントはためき十二月

- 小原 子川
福留ともり
楮佐古きよ
小原 景守
高野 和一
山本 太幸
山崎 貴子
岡田美代子
森本 純喜
北村千鶴子
山崎 寿美
有澤 春江
千頭 野草
森本 幸美
佐竹 真季

◆ 俳 句 会 ◆
押しくらまゆしゅう一抜け 抜け二抜けて
柿の木に大根干してある山家
葛からむ梅の古木や桃青忌
息災を書き添ふ賀状出す媼
根木打の遊び呼び名もすたれゆく
寒厨派手な音して皿割るる
夕焼けに彩極まりぬ夕紅葉
このダムの小ぶりの鴨の陣立ても
今日も又喪中の知らせ山眠る
空稲架をそのままにして師走かな
文旦の地にふるるほど色づきて
藁打ちの構へに祖父の頬披
窓越しに消えし乗鞍霧襖
笑ふ眼に残る幼や頬披

◆かほく俳句会◆

短日を三度の飯に追はれけり
山茶花の万の花びら浄土かな
初時雨今日より梨の棚手入れ
火の神に守られ香る柚子湯かな
世の波を幾度越へて柚子風呂に
吊し柿刻刻山の日は落ちぬ
小春日や嬰兒の眠る乳母車
持山の目印となる冬紅葉
母よりの絵手紙太き唐辛子
極月の土間の柱に赤き護符
風神に脅され櫓枯れ尽す
別府地獄海地獄あり木の葉舞ふ
出番無き道具のいくつ年詰まる
人恋の師走の机灯を低く
満開のいつとも知れず枇杷の花

- 公文 春紀
岡本かほる
高橋 章
篠崎 亜希
明石ゆきゑ
北村 幸子
西川 常夫
甲藤 卓雄
國澤 英
野崎 典子
北村 里子
前田 芳子
明石 英子
竹内 ろ草
乾 真紀子
奥宮さとみ
久保内鏡子
黒岩 幸女
黒岩千英子
小松 隆之
小松 完
小松 昇
杉山 春萌
野村 里史
前田 欣一
前田 秀女
間崎 和代
森本 之子
山崎かずみ

冬鳥を呼べば応へて身ほとりに
山仕事一人に慣れて日向ぼこ
父母の忌を修す勤労感謝の日
◆ 土佐山田町俳句会 ◆
爛瓶も程よくなりし夜なべかな
水かけろう書架まぶしめる冬至かな
もの言わぬ石と対話や冬温し
ひとりごと風にうなづく花八ッ手
万屋の甘柿渋柿村昏れる
今朝の冬赤い帽子の辻地藏
献灯の顔なし地藏毛糸帽
十二月塀に梯子の先見えて
冬の虹かかる平山小学校
埋められし沼のあたりの冬木立
明石 莖生
大石 邦男
前田 小夜
中沢としみ
安丸 慎子
森田 菊恵
前田美智子
橋本 昭和
櫻谷 雅道
田村 一翠

◆今月のキラリ◆

新年は賑やかな日々孫が来て
嫁いだ娘、外孫も内孫も。家族がそろって一
家団らんのひとつきを過す。それがお正月。
ずっと続いてきた年の始めのためでたさである。

俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。(ただし、ハガキで投稿の場合、一人一枚のハガキで5句(首)以内)
▼かい書で、住所、氏名、電話番号を必ず明記してください。
▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。
▼誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。
【投稿先】企画課内広報委員会事務局「俳句・短歌係」
〒782-8501(住所不要) FAX 53・5958

吉井勇記念館だより

吉井勇顕彰短歌大会 伊藤一彦先生講演会

第8回吉井勇顕彰短歌大会表彰式の終了後に講演会を開催します。講師は今大会選者の伊藤一彦先生です。大会への作品投稿の有無に関わらず、どなたでもご参加できます。皆さんお誘い合わせの上、ご来場ください。
【日時】3月5日(土) 14時(予定)
【場所】猪野々集会所(吉井勇記念館隣) ※入場無料
【講師】伊藤一彦さん(昭和18年宮崎県生まれ。若山牧水記念文学館館長。宮崎県立看護大学教授。『心の花』所属。『現代短歌・南の会』代表)
【問い合わせ先】吉井勇記念館 ☎58・2220

吉井勇作品紹介 龍馬編 その⑦

あたらしき 龍馬出でよと 叫ぶごと
一萬の紙 おのづから鳴る
『短歌研究』第二卷第十一号十一月(昭和8年11月 改造社)
この歌は、昭和8年8月26日、はじめて猪野々を訪れた際に書いた『猪野々日記』の中に詠まれている。高知新聞社に依頼されて作った高知新聞1万号お祝いの歌で、翌27日に詠まれた。
龍馬編は今回で終わります。次回からは、季節に応じた歌を紹介していきます。お楽しみに。

香美市立美術館



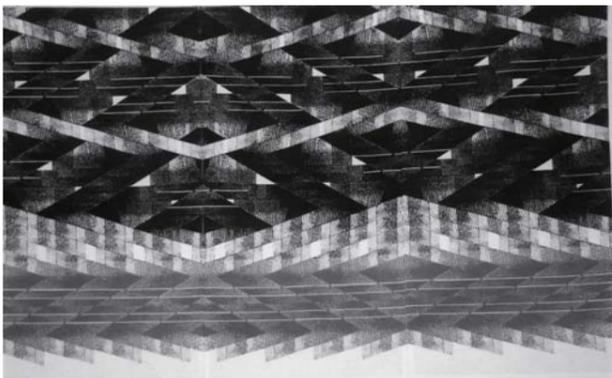
今回は、地元の染色作家・青木邦子さんの長年にわたる型絵染の作品と、近年、新しく当館の収蔵品に加わった作品を中心に展示をします。

香美市土佐山田町在住の青木邦子さんは、もともと日本画や絵更紗を学んでい

積み、1990年には『新匠工芸展』にて新人賞を受賞し、新匠工芸会会友に、2003年には会員に推挙されます。その間も高知大の個展を中心に発表を続け、2008年、2010年と高知県展工芸の部で特選に輝きます。

青木邦子 型絵染の世界&収蔵品展

2月11日(金・祝)~3月21日(月・祝)



▲時空 青木邦子

型絵染というのは、丈夫な柿渋紙に模様を描き、カッターを使って透かし模様を切り抜くことから始まる、大変時間のかかる染色方法ですが、できあがった型紙をもとに組み合わせられる美しい構成は、他の染色には無い魅力があります。写真のタピストリー『時空』(150×240cm)の型絵染作品も型絵染ならではのシャープな直線、細かい曲線の組み合わせでできており、無限の広がりを感じさせてくれます。過去から現在、そして未来へと繋がっていく私たち人間の生命の連鎖をも想像させてくれる作品です。

また、収蔵品からは、昨年開催しました『筒井広道追悼展』を記念して、ご遺族から寄贈していただきました油彩画『椿の木のある風景』をはじめ、中村博、片木太郎などの絵画作品が並びますので、ご期待ください。皆さまのご来館をお待ちしております。(館長・北 泰子)